



# 弘大農学生命科学部 同窓会会報

第23号

平成17年6月1日発行  
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会  
TEL 0172-36-2111  
FAX 0172-39-3750  
振替 02340-7-564  
印刷 (株) 笹印刷



## 創立50周年記念事業 －ご協賛の醸金は一口5千円から－

同窓会長 三上 翼

### 醸金の状況

5,300余名の同窓生の皆さん、私共の学部は昭和30年（1955年）7月、青森県内のりんご生産者を始めとする農業関係者からの学部創立を懇請しての貴重な寄附金協賛を基に、これに呼応・協賛した県・市町村・農業団体等、当時の関係者の並

々ならぬご苦労・ご尽力により学部生誕の慶事を見るに至ったのであります。

爾来、半世紀を経つますが、時あたかも昨年4月1日から母校弘前大学が国立から国立大学法人弘前大学として、これまで以上に自立自助の基本理念のもと、特に「地域に根ざし地域と共に



「細胞工学実験（2005年4月 応用生命工学科実験室内）」

にある大学の構築」が求められることになったことを踏まえ、私共同窓会は、新生・農学生命科学部が名実共に地域に貢献し、他に誇り得る学部として前進・飛躍する期待・願望を込め、大学・学部当局並びにPTA的組織である「後援会」と一体となり、「創立50周年記念事業」を実施することとし自下、会員の皆様方にご協賛の醸金をお願いしているところであります。

その、醸金状況についてでありますと、3月31日現在の累計で醸金者は535名、醸金額は1,152万円となっていますが、この額は計画している6つの事業、即ち、

- ① 記念式典、記念講演、記念祝賀会 (200万円)
- ② 地域振興支援特別研究事業 (1,000万円)
- ③ 学部創立50周年記念誌の刊行 (500万円)
- ④ 記念碑の設置 (300万円)
- ⑤ 記念図書の創設 (300万円)
- ⑥ 学部環境整備事業 (200万円)

これら記念事業の事業費総額（醸金見込額）2,500万円に対し大幅に下回っている状況にあることから、去る4月23日開催の同窓会総会において事業計画の縮小・見直しをしつつも、法人化後

の学部当局に求められる「地域に根ざし、地域とともにある大学の構築」を支援する趣旨からも「地域振興支援特別研究事業」の1,000万円については本年7月末までの最終の醸金依頼活動において是非とも確保する方向で対処することを確認し合ったところであります。

つきましては既に醸金なされている会員の方々の更なるご協賛をも含め、新たにご協賛いただく方々には、一口、5千円からの醸金方について、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 7月2日、集おう!!新生・弘大キャンパスへ

往時、同窓生の皆さん方が、みちのくの小京都、学都・弘前市において大いに学び、交遊し合い、青春を謳歌された弘大キャンパスは法人化に伴い、大学・学部の校舎・環境を整え、装いも新たに訪れる方々をお待ちしております。

5,300余名の同窓生の皆さん!!

7月2日、新生・農学生命科学部の新たな半世紀のスタートと共に祝い、激励・支援すべく、装いも新たな弘大・キャンパスに集おうではありませんか!!



## 「学部創立50周年を迎えます」

農学生命科学部長 豊川好司

ご承知のように、本学部は昭和30年7月1日に創設され、今年が丁度50周年です。私事となりますが、私が本学部に赴任したのが昭和42年でした。以来38年を過ごしました。また、私は本学部の一学部一学科時代の卒業生であり、卒業証書（学位記）番号は第8回卒業の、とても覚えやすい212号です。2004年度現在の卒業生は5273名ですから、私はかなり若い証書番号となります。そういうことから私は本学部に42年間お世話になりました。42年間は結構長い期間ですが、しかし、今となってはあっという間の感じです。

個人的な思い出で恐縮ですが、学生時代にちょっと思いをいたしてみると、やはり多感な大学生として講義を聞くことができた、多くの先生方の顔が浮かんできます。学部創立間もない新制大学に高い志を持って着任された先生方の教育・研究指導に熱気があったことを、今でも肌に感じ

られます。

既にお知らせしたように、弘前大学は独立行政法人となりました。大学法人化が求められていることを結論的に申しますと、当然のことですが、設置形態がどうであれ、社会の期待に応えられる大学・学部として、高い評価が得られる教育・研究、あるいは社会貢献活動を推進していくことであり、国がこれらの実績・成果に対して具体的な支援策を講じることになっていることです。

日本の大学変革は歴史的に明治初期の帝国大学設置、戦後の新制大学設置があり、そして今回の国立大学独法人化があります。私は独法人化を一年間過ごした最近、学部の先生方の様子から思うことは、皆さんきびきびと活動的で、表情が引き締まっていることです。本学部の先生方は今、日本の歴史的大変革に対し、ひるまない覚悟ができたと感じています。

私が大学人として同僚を思うことに、皆さんは知りたいことを学び、自分を高めることを追及しようとする気持ちが強いということです。そして又、私は大学・学部の多くの課題が民主的な話し合いの中で解決されてきたことを誇りと思ってきました。皆の思考を引き出し課題解決に参加してもらうことが肝心と思っています。

農学生命科学部は学部の将来構想委員会の下に、教育・研究・運営の理念・目的・組織などを設計中です。完成を急いでいますが、本計画には同窓生、学生、企業のアンケート資料を役立てるなど、

準備万端整えて取り組んでいます。本学部は目標を定め、その目標に向かって進んで行きますが、目標を持つことは進化できることに繋がります。先生方の自分を高めたいという志を徹底的に付き合わせることができより良い目標を掲げることに繋がり、本学部の展開を高揚できると思っています。

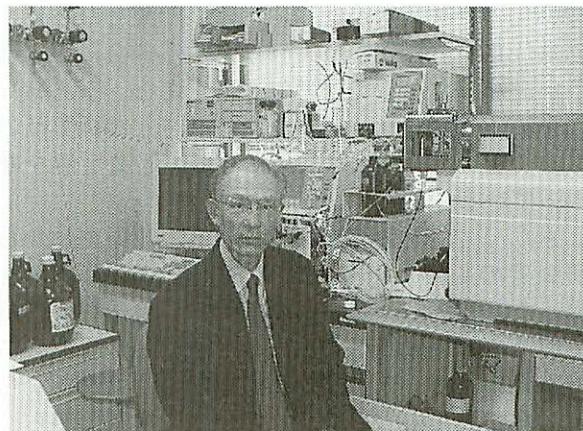
本学部は創立時の高邁な先輩先生方に匹敵できる教授陣を擁しています。50周年は100周年に向けた出発年です。皆さんには本学部の発展を期待して頂きたいと思っています。

### 退職教員からの寄稿

## 弘前大学での36年間を振りかえって

応用生命工学科 生体情報工学講座 奥野智旦

1969年（昭和44年）3月に、博士課程を終えたばかりの私が農学部に勤務してから今年の農学生命科学部退職まで36年間という長い月日が経ちました。すきま風が入ってくる鉄サッシの窓や壁の縁から廊下が見えたりする建物からすっかり改築されて冬でも暖かく過ごせるようになり、大学院の設置や実験機器の整備を含め研究環境は格段に良くなりました。この間私たちの研究グループに所属して卒業研究を行った学生は320名余りで、直接指導したのはその1/3余りになります。修士・博士課程に進学した人の分も加えて多くの人々が頭脳と労力と費用を使って様々な研究実験を行なってきました。この膨大といえる仕事量の結果を私がどのように活用したのかを考えると大学教員としての責任の重さを感じないわけにはいきません。我々の研究は、有機化学や生化学を基礎とする天然物化学と呼ばれている分野に分類され、リンゴ樹に寄生する植物病原菌の生産物質の宿主への毒性、真菌が生産する抗菌物質、ベニバナの花色色素、リンゴの自家不和合性に関与するタンパク質、リンゴ銀葉病菌が生産する銀葉症状発現原因物質であるペクチン質分解酵素の構造、リンゴ類由来の多糖類の生理活性等でこれら特異な生物現象に関与するそれぞれの物質を突き止め、その化学構造（構成元素の結合順序やその3次元の形）を明らかにするという内容です。研究結果は新しい化合物の発見という形であったり、長い間わからなかつたことを解決できたとか、こんな物質がこんな現象に関わっているのという形であつ



機器分析室で

たりしました。書物等からの情報ではなく自分達が構造決定した様々な化合物は何といつても親しみがあり、どうしてこんな化合物を創ったのだろうと自然の仕組みの不思議さと奥深さを垣間見ることができます。現実は、構造を決めるというパズル解きの面白さを体験させてもらいましたが、この40年間で測定機器の性能の進歩と既知情報の活用の容易化により我々が行って来たこともルーチン化、自動化されつつあり、バイオニア体験が個人で実感し難くなりました。これまで天然物化学で研究対象となった物質は、生命維持の基礎代謝系からは少しそれぞれに多様で特異な構造を持つ化合物群であり、生命現象における役割は解明が遅れていますが、今後、遺伝子解析とも結びついて構造の多様性や役割の必然性が説

明できるようになるのではと期待しています。

末筆になりましたが、本学でこれまでにご指導・ご交誼をいただきました先輩・同僚の先生方に厚く御礼申し上げますと同時に、卒業生の皆様

のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。また、農学生命科学部がこれまでの50年と同様に今後も、着実に発展して行くことを期待いたします。

### 退職教員からの寄稿

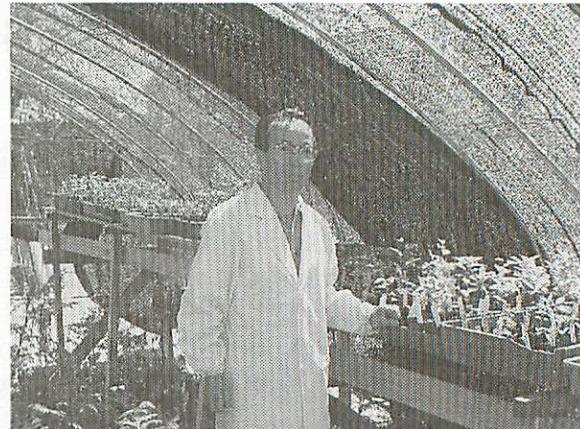
## 下山すべきか、登り続けるべきか? —退職前後の心境

生物生産科学科 環境生物学講座 原田幸雄

弘前大学に助手として赴任後間もなく、教授の照井陸奥生先生宅にお呼ばれしご馳走になった。もう43年も前のことである。その際お座敷の壁に「下りきて 見返る山の なつかしき」と書かれた色紙が目に止まった。恩師の伊藤誠哉先生に書いて頂いたと伺った。達筆な文字とともに味わい深い句の意味に惹かれ、忘れ難い印象となった。私は仕事がらしばしば山登りをする機会に恵まれるが、帰路きまつてこの句を口ずさむ。不思議なことに、その時私は登った山の高さとか採集品の多少に関わりなく、いつも充実した満足感を味わっている。

もう一つ、元教育学部教授の石川茂雄先生から、研究者的心構えを登山にたとえて貴重な教示を賜った。それは、先生が弘前から千葉に移られる直前であったと記憶する。わざわざ私の研究室におみえになり、先生は紙に山を3つ4つ左側から右に順次高く山すそを連ね合わせて描きながら、こう言られた。一つの山に登ったら、もっと高い次の山が見えるでしょう。それに挑戦しなさい。その山の奥にはさらに高い山があります。それをを目指しなさい。世界にはもっともっと高い山がたくさんあります（私なりに理解した大意）。つまり、研究者は常に努力して進歩しなければならない事を、別離のはなむけとして語られたものと思う。有難いことであった。

退官を1年後に控え昨年夏書斎を増築した。本箱を揃えて研究室から私物の本や書類を風呂敷に包み、連日少しづつ自宅に運ぶ。荷物の運搬と書斎の整理ではずい分と周囲の方々のお世話になった。学生たちは「一人の教授を卒業させるのも大変なものだ。」と、思ったかも知れない。余談になるが、引越しでは風呂敷の便利さを再認識した。本年3月下旬に至ってどうにか予定したものは運び終えた。そして休む暇もなく現職最後の学会出



サクラの苗木の前で

席（日本植物病理学会大会、静岡市）を果した。これで区切りをつけたつもりだった。しかし、4月になつても一向に心境の変化が起こらない。4月4日（月）朝、少しの迷いはあったが、習慣で研究室に出向く。これが「慣性の法則」と言うのだろうか。試みに国語辞典を繙いてみた。慣性の法則。ニュートンの運動の第一法則。物体は外力の作用を受けない限り、静止、または、等速度運動の状態を続けるというもの、とあった。どうやら私はまだ「外力の作用」を感じていないらしい。

退職にあたってこれから研究生活の面で“下山”すべきか、さらに登り続けるべきか迷っていたところ、本学の名誉教授S先生から先頃頂戴したお便りの中に「真実一路」の言葉を見い出した。そうか、低い山も高い山も一体であり、登山も下山も一路。これが山登りを人生行路にたとえるゆえんなのだ。努力して一路を全うしなければならない。伊藤先生の色紙の句と石川先生のはなむけの言葉の意味を改めてかみしめている昨今である。

## 平成17-18年度同窓会総会報告

平成17-18年度総会が平成17年4月23日14時から弘前市のプリンスさくら亭で開催され、平成15-17年度事業報告および決算報告、規約改正案、平成17-18年度事業計画および予算案が、事務局から提案され、質疑応答の後、原案通り承認されました。規約改正に至った経緯につきましては同封致しました会長のご挨拶状に述べてあります。

### 1. 平成15-16年度事業報告

#### (1) 平成15年度事業報告

- 平成15年 4月 15日 卒業生・修了生へ記念写真の送付
- 5月 30日 母校援助費として30万円寄贈
- 6月 6日 同窓会役員会（弘前大学）
- 7月 17日 全学同窓会会費の納入（平成15年度分）
- 7月 23日 会報第21号発行（平成15-16年度会費の納入依頼）
- 9月 13日 同窓会総会（五所川原市：ホテルサンルート）
- 11月 14日 東青支部同窓会総会（豊川、小原、工藤啓一、泉教官出席）
- 11月 28日 岩手支部総会（原田幸雄、戸羽教官出席）
- 平成16年 3月 23日 卒業・修了生同窓会入会祝賀会

#### (2) 平成16年度事業報告

- 平成16年 4月 5日 卒業生・修了生へ記念写真の送付
- 4月 7日 母校援助費として30万円寄贈
- 6月 1日 会報第22号発行（創立50周年記念事業の醸金依頼）
- 7月 9日 同窓会拡大役員会（弘前大学）

7月 21日 全学同窓会会費の納入（平成16年度分）

11月 23日 八戸支部総会（豊川学部長、三上会長出席）

11月 11日 青森県庁同窓の集い（豊川、工藤明教員出席）

11月 27日 福島支部総会（原田幸雄、工藤明教員出席）

12月 1日 同窓会名簿発行・送付（2回目の醸金依頼）

平成17年 2月 10日 東青支部同窓会総会（豊川、齊藤寛、瀧谷、戸羽教員出席）

2月 19日 山形支部総会（宮入、工藤明教員出席）

2月 26日 岩手支部総会（工藤啓一、加藤幸教員出席）

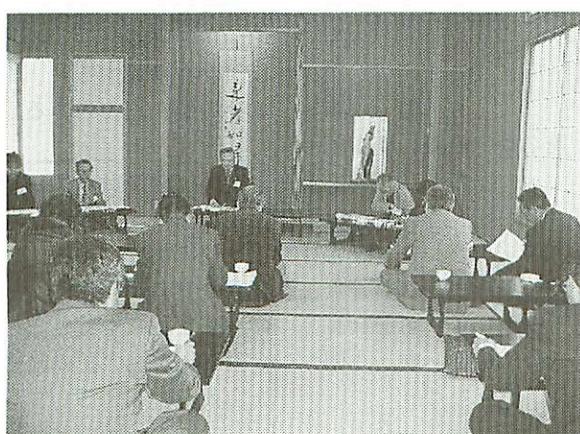
3月 23日 卒業・修了生同窓会入会祝賀会

#### （参考）

平成17年 4月 卒業生・修了生へ記念写真の送付

4月 15日 同窓会役員会（弘前大学農学生命科学部）

4月 23日 同窓会総会（弘前市プリンスさくら亭）



同窓会総会



総会終了後に開催された懇親会の模様

## 2. 平成15-16年度会計報告

### 収 入

(単位：円)

項目	予 算	決 算	摘要
繰 越 金	4,035,764	4,035,764	
正 会 員 会 費	5,000,000	2,685,000	537名
新 入 生 入 会 費	2,450,000	2,540,000	254名
広 告 料	60,000	165,000	
利 息	1,000	210,712	定期預金満期 解約時利子
振 替 手 数 料	-100,000	-51,200	
そ の 他		154,000	
合 計	11,446,764	9,739,276	

### 支 出

(単位：円)

項目	予 算	決 算	摘要
名 簿 発 行 費	2,200,000	1,917,934	
会 報 発 行 費	2,700,000	2,555,287	会報21、22号
卒 業 祝 賀 会 費	1,200,000	934,699	
支 部 派 遣 費	950,000	386,000	
母 校 援 助 費	600,000	600,000	
会 議 費	300,000	265,409	
庶 務 ・ 管 理 費	100,000	16,070	
通 信 ・ 印 刷 費	100,000	22,284	
慶弔費	10,000	4,640	
全学同窓会会費	296,000	296,000	
予備費（繰越金）	2,990,764	2,735,953	
そ の 他		5,000	
合 計	11,446,764	9,739,276	

### 3. 規約の改正

二重線部分を削除し、太線のように改正する。

#### 弘前大学農学生命科学部同窓会規約

平成17年4月23日改正  
=(9.11.29)=

第1条 本会は弘前大学農学生命科学部同窓会と称し事務局を弘前大学農学生命科学部内に置く。

第2条 本会員を正会員、特別会員、準会員とし、学部卒業生ならびに大学院修了生を正会員、母校教官、前教官及び関係者を特別会員とし、学生を準会員とする。

第3条 本会は母校の発展に積極的に寄与し、会員相互の連絡、親睦を図ることを目的とする。

第4条 本会の目的達成のため下記の事業を行う。

1. 各等の作成 会報の発行

2. 支部の設置

3. その他本会目的達成のため必要な事項

第5条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 会員中より役員会で推薦し、総会で決定する。

2. 副会長〃

3. 監事〃

4. 支部長 支部総会で正会員より選出する。

5. 評議員 総会に於て正会員中より30名以内を選出する。

6. 幹事 正会員中より若干名を会長が委嘱する。

第6条 役員の任務を次の如く定める。

1. 会長 本会を代表し会務を統理する。

2. 副会長 会長を補佐し、会長の代理をつとめる。

3. 監事 会計を監査する。

4. 支部長 支部を代表し、支部の事務をつかさどる。

5. 評議員 役員会を構成する。

6. 幹事 本会の会務を担当する。

第7条 役員の任期

1. 会長、副会長、監事、評議員および幹事の任期は2年と定める。

2. 支部長の任期は支部の決定による。

第8条 本会に名誉会長と顧問を置く。

1. 名誉会長 学部長を推戴する。

2. 顧問 会長および副会長の経験者を会長が委嘱する。

第9条 総会

1. 通常総会 隔年毎とし期日は役員会に於て決定するものとする。

2. 臨時総会 役員会に於て必要と認めた場合にこれを開く。
3. 総会に於て次の事項を審議する。
- イ 過去2年間の事業報告及び収支決算報告
- ロ 今後2年間の事業計画
- ハ 予算案の審議
- ニ 規約改正
4. 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
5. 議長は総会に於て出席会員中より選出する。

## 第10条 役員会

1. 役員会は会長、副会長、監事、支部長、評議員及び幹事をもって構成する。
2. 役員会は会長が招集し、本会の方針、会の改廃その他重要事項を審議し、これを総会に提案する。

## 第11条 本会の経費は会費及び寄附金をもってこれに充てる。

1. 会計年度は4月1日から翌々年3月31日までの単年度とする。

2. 会費
- 入会費 10,000円（入学時納入）
- 正会費 1年度（2年間）5,000円  
(2年分前納)

## 申し合せ事項

1. 特別会員、正会員が逝去した場合、弔電をもって弔意を表する。
- ~~2. 会員名簿は会費納入者へ配布する。~~
2. 学部中退者で希望者は正会員とする。

## 4. 平成17-18年度事業計画

- (1) 母校創立50周年記念事業への協賛・援助
- (2) 総会の開催
- (3) 役員会の開催
- (4) 同窓会会報の発行（第23, 24号）
- (5) 支部活動への援助（教員・役員の派遣）
- (6) 卒業・修了生同窓会入会祝賀会
- (7) 農学生命科学部への援助
- (8) 全学同窓会への援助
- (9) その他必要と認められる事業

## 5. 平成17-18年度予算

## 収入

(単位：円)

項目	予算	摘要
繰越金	2,735,953	
正会員会費	2,500,000	500人×@5,000
新入生入会費	2,780,000	185人×@10,000×0.75
広告料	0	
利息	1,000	
振替手数料	-55,000	
合計	7,961,953	

## 支出

(単位：円)

項目	予算	摘要
会報発行費	2,900,000	会報23、24号
卒業祝賀会費	950,000	
支部派遣費	240,000	
母校援助費	520,000	前期会費収入の1割
会議費	270,000	
庶務・管理費	20,000	
通信・印刷費	20,000	
慶弔費	10,000	
全学同窓会会費	296,000	148,000×2年
予備費（繰越金）	2,735,953	
合計	7,961,953	

## 6. 平成17-18年度役員

役職名	氏名	勤務先	卒業年	教室名
名誉会長	豊川好司	弘前大学農学生命科学部長	38	畜産
顧問	横山宏	元農学部同窓会長	28	農製
	岩井邦彦	元農学部同窓会長	32	土肥
	中尾良仁	元農学部同窓会長	32	土肥
	油川孝男	前農学生命科学部同窓会長	37	農経
会長	三上翼	元青森県原子力施設安全検証室	42	農経
副会長	今哲広	自営(元青森県農業会議)	42	農経
	桜庭和範	弘前市教育委員会	48	作物
監事	工藤啓一	弘前大学農学生命科学部	38	作物
	西川明満	元青森県農協中央会	45	作物
評議員	大場真紀	芝管工(株)	38	農経
	池田八郎	八戸市役所	43	植病
	神敏勝	社会福祉法人茜育友会	43	育種
	斎藤一志	(株)国土社	45	造施
	佐藤鉄雄	青森市役所商工観光部	45	育種
	蒔苗龍一	(株)東北建設コンサルタント	45	農地
	相馬敏光	(株)ササキコーポレーション	45	農機
	伊藤正光	青森県農林部農政課	46	育種
	木立正博	黒石市役所都市開発課	46	造施
	田村優一	青森県農林水産部	46	育種
	及川博	青森県農業会議	47	農経
	木村郁夫	(自営)キムラ園芸種苗	47	園芸
	五十嵐啓真	(自営)五十嵐農場	48	農機
	木村利幸	青森県農業試験場	48	昆虫
	工藤保	むつ市役所経済部	48	土肥
	福士有一	藤崎園芸高等学校	48	育種
	蓮井裕二	東北女子短期大学	49	生化
	泉完	弘前大学農学生命科学部	53	水利
	蛇名正樹	弘前市役所建設部土木課	53	農地
	工藤博喜	津軽尾上農協	54	果樹
	古館行雄	三本木農業高校	55	蔬花
	今智之	青森県りんご試験場	56	育種
	奈良岡馨	青森県工業試験場	56	農利
	田中満	柏木農業高校	58	育種
	黒滝英樹	青森県経済連	60	流通
	新谷貴裕	(株)東北建設コンサルタント	平8	水利
総務幹事	工藤明	弘前大学農学生命科学部	47	水利
情報幹事	戸羽隆宏	弘前大学農学生命科学部	50	農利
会計幹事	加藤幸	弘前大学農学生命科学部	平4	造施

## 7. 母校創立50周年記念事業について

事務局から学部および同窓会としての取り組み状況について報告があった。以下の事業が計画されていたが、醸金の状況によっては縮小せざるを得ない。

- (1) 弘前大学農学生命科学部創立50周年記念式典、記念講演、記念祝賀会 7月2日午後に開催 (200万円)
  - (2) 地域振興支援特別研究事業 (1,000万円)
  - (3) 弘前大学農学生命科学部創立50周年記念誌の刊行 (500万円)
  - (4) 記念碑の設置 (300万円)
  - (5) 記念図書の創設 (300万円)
  - (6) 学部環境整備事業 (200万円)
- \*さらに7月2日午前には「りんご」に関するシンポジウムを予定

### 同窓会での醸金状況

平成16年10月31日現在

醸金者287名、醸金総額636万円

平成17年3月31日現在

醸金者累計535名、醸金総額1,152.5万円

記念祝賀会への出席者124名

(現教員32名、元教官15名、同窓生77名)

第3回目(最終) 醸金のお願いは6月上旬会報の送付時にを行う予定

### 創立50周年記念事業特別会計(案)

収入 同窓会での醸金

1,445万円

支出 記念式典、記念講演、記念祝賀会など

200万円

地域振興支援特別研究事業

780万円

創立50周年記念誌

300万円

事務経費(醸金のお願いなど)

165万円

なお、地域振興支援特別研究事業には後援会からの援助(220万円)を含めて当初計画の1,000万円を確保するよう努力する。

## 8. 個人情報の取り扱いについて

事務局から会員情報の取り扱いに関するポリシーが提案され、承認された。併せて、事務局に情報提供を依頼する場合の書式も承認された。

### 弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて

2005年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これまで同窓会では個人情報の保護に対し、配慮を行ってまいりましたが、法律施行に伴い今後は以下の方針をもとに対応してまいります。

#### ・個人情報の収集、利用は目的を明確に、それ以外の利用はしない

基本的に、同窓生に関する情報は、大学在籍時に学務部等に届けられたもののほか、卒業後に本人から届け出のあったものを活用しております。

利用の目的は

1. 同窓会報の送付・会費納入の依頼
2. 同窓会主催行事の案内
3. 各地方支部の行事案内

に限っております。

#### ・個人情報の正確性、安全性の確保

同窓会で使用する個人情報につきましては、本人の申告に基づく内容の更新や修正を行っております。また、個人情報の上記目的への利用に抵抗を感じられる方は、事務局にご連絡頂けますと対象から除外させていただきます。

#### ・同窓会本部が所有する個人情報データの利用について

今後は、同窓生に関する個人情報データを本部以外の方が使用する場合は、“使用の目的、対象範囲および個人情報保護法に則った使用の誓約”を明記した「個人情報データ活用依頼書」の提出を義務づけ、提供は本部が審査の上、適切なものに限って提供することとします。

提供可能な例：

- \* 地方支部会開催のため、その地域に住む同窓生データが必要な場合
  - \* 同級会を開きたいので、連絡先が不明な同級生の連絡先を知りたい場合
- など

また、同窓会から得たデータを使用後に適正な廃棄処分を実施しなかった場合や、許可なく他人に譲渡するなどして、法律的な責任問題が生じた場合は当事者の責任とします。

**弘前大学農学生命科学部同窓会 同窓生情報活用依頼書**

弘前大学農学生命科学部同窓会 会長 殿

この度、下記の目的で同窓生に関する情報を活用したく、記載の範囲の情報を提供して頂けますようお願いいたします。提供頂きました情報は、個人情報保護法に則って、申請致しました目的にのみ適正に使用し、使用目的終了後は、責任をもって処理いたしますことを誓約致します。

**使用目的（具体的に）**

（例： 平成〇〇年度卒業生に対する同級会開催案内状発送のため）

**使用したい情報（具体的に）**

（例： 弘前市近郊に住む、平成〇〇年度卒業生データ）

年月日 年 月 日

申請者 所属

氏名 印

電話・ファックス番号

## 農学生命科学部の今

## 仕事や進学に関するご相談をお待ちしております

農学生命科学部および関連施設の教員ならびに職員

学科	講 座	職 名	教 員 名	電話番号
生物機能科学科	生命理学	教授	鮫島 正純	39-3949
		教授	黒尾(片倉)正樹	39-3591
		助教授	松岡 教理	39-3590
		助教授	福澤 雅志	39-3596
	遺伝情報科学	教授	新 開 稔	39-3776
		教授	小原 良孝	39-3589
		助教授	石田 幸子	39-3587
		助教授	原田 竹雄	39-3777
		助教授	石川 隆二	39-3778
		助手	吉田 渉	39-3793
応用生命工学科	生体機能工学	教授	青山 正和	39-3792
		教授	葛西 身延	39-3584
		助教授	齋藤 寛	39-3791
		教授	武田 潔	39-3775
		教授	五十嵐 康雄	39-3789
	生体情報工学	教授	戸羽 隆宏	39-3786
		助教授	長田 恭一	
		助教授	殿内 曜夫	39-3781
		教授	武藤 晃	39-3592
		教授	宮入 一夫	39-3772
生物生産科学科	細胞工学	教授	橋本 勝	39-3782
		助教授	姫野 俵太	39-3592
		助教授	牛田 千里	39-3592
		教授	片方 陽太郎	39-3773
		教授	菊池 英明	39-3586
	園芸学	教授	石黒 誠一	39-3780
		教授	大町 鉄雄	39-3774
		助教授	吉田 孝	39-3794
		助手	畠山 幸紀	39-3588
		教授	嵯峨 紘一	39-3811
農業生産科学科	農業生産学	教授	荒川 修	39-3809
		助教授	加藤 弘道	39-3857
		助教授	浅田 武典	39-3808
		助教授	張樹槐	39-3859
		助教授	本多 和茂	39-3812
		教授	豊川 好司	39-3804
		教授	杉山 修一	39-3801
		助教授	工藤 啓一	39-3802
		助教授	鈴木 裕之	39-3805
		講師	福地 博	39-3858
		助手	松山 信彦	39-3803

学科	講 座	職 名	教 員 名	電話番号
生物生産科学科	環境生物学	教授	佐原 雄二	39-3950
		教授	比留間 潔	39-3819
		教授	佐野 輝男	39-3817
		助教授	城田 安幸	39-3823
		助教授	東 信行	39-3824
		助手	藤田 隆	39-3818
地域環境科学科	地域環境工学	教授	万木 正弘	39-3871
		教授	工藤 明	39-3842
		教授	佐々木 長市	39-3847
		助教授	萩原 守	39-3846
		助教授	泉 完	39-3843
	地域環境計画学	講師	角野 三好	39-3849
		助手	加藤 幸	39-3869
		教授	谷口 建	39-3848
		教授	高橋 照夫	39-3856
		教授	檜垣 大助	39-3854
地域資源経営学	地域資源経営学	助教授	藤崎 浩幸	39-3855
		教授	高橋 秀直	39-3827
		教授	宇野 忠義	39-3826
		教授	神田 健策	39-3828
		助教授	武田 共治	39-3933
		助教授	瀧谷 長生	39-3830
		助教授	泉谷 真実	39-3829
		施設名等	職名	教員名
		研生物セミナー	教授	藤崎 雄之輔
		生タク	助教授	伊藤 大雄
施設名等	藤崎農場	助教授	村山 成治	0173-53-2029
		教授	牧田 肇	39-3956
		助教授	赤田 辰治	39-3892
		助手	千田 峰生	39-3893
		事務職員	職名	職員名
	高橋農場	事務長	福嶋 勉	39-3742
		総務グループ (総務担当)	係長	成田 明
		総務グループ (研究協力担当)	係長	澤田 和則
		附属施設グループ (藤崎農場)	係長	加藤 勇樹
		附属施設グループ (金木農場)	係長	三上 初雄

2005年5月1日現在

この名簿は会員から母校への連絡用にお使い下さい。勧誘の目的には使わないで下さい。

事務職員は事務長と係長を掲載しています。特に記載が無い場合、市外局番は0172です。電話は直通です。

## 農学生命科学部の今

## 研究・教育最前線

3回シリーズで農学生命科学部の今の陣容を御紹介します



観 察

## 鮫島 正純

担当専門教育科目：植物器官学、植物細胞分化学  
担当大学院科目：細胞構造機能学  
専門分野：植物形態機能学  
主要研究テーマ：休眠体の形成・維持機構

生物機能科学科  
生命理学講座

## 松岡 教理

担当専門教育科目：分子進化学 I・II  
担当大学院科目：分子進化学  
専門分野：分子系統学、分子集団遺伝学  
主要研究テーマ：海産動物(棘皮動物・魚類など)の分子系統学  
昆虫類の分子系統進化



## 黒尾(片倉) 正樹

担当専門教育科目：基礎細胞学、分子細胞生物学  
担当大学院科目：分子細胞遺伝学  
専門分野：分子細胞遺伝学  
主要研究テーマ：脊椎動物における遺伝的多様性に関する分子遺伝学的研究

## 福澤 雅志

担当専門教育科目：植物生理学 I・II  
担当大学院科目：植物成長生理学  
専門分野：分子発生生物学、細胞生物学  
主要研究テーマ：遺伝子の発現調節と転写因子によるシグナル伝達機構

試料調製

## 五十嵐 康雄

担当専門教育科目：食品プロセス工学、食品機能学  
担当大学院科目：食品化学  
専門分野：畜産物利用学  
主要研究テーマ：牛乳タンパク質の特性と利用



## 武田 潔

担当専門教育科目：応用微生物学、微生物生態学  
担当大学院科目：応用微生物工学  
専門分野：応用微生物学  
主要研究テーマ：微生物機能に関する理論と応用

電気泳動



応用生命工学科  
生体機能工学講座

水田土壤からの試料採取

## 戸羽 隆宏

担当専門教育科目：食品科学、生体防御システム学  
担当大学院科目：食品安全学  
専門分野：食品微生物学  
主要研究テーマ：食品の安全性の向上に関する研究  
乳酸菌に関する研究

## 長田 恭一

担当専門教育科目：栄養化学、生体防御システム学  
担当大学院科目：食品栄養化学  
専門分野：食品栄養化学、食品化学  
主要研究テーマ：脂質酸化物の生理機能と有害作用の防止対策に関する栄養生化学的研究



## 殿内 晃夫

担当専門教育科目：生体物理化学、食品分析学  
担当大学院科目：微生物分子生態学  
専門分野：応用微生物学、微生物生態学  
主要研究テーマ：水田土壤中におけるメタン生成古細菌の生態に関する研究  
嫌気環境における真の水素消費者と新規古細菌に関する研究

脂質の分析

**嵯峨 紘一**

担当専門教育科目：蔬菜園芸学、蔬菜園芸学各論  
 担当大学院科目：蔬菜生理生態學  
 専門分野：蔬菜園芸學  
 主要研究テーマ：蔬菜の発育生理に関する研究  
 香辛蔬菜の品質及び組織培養

**加藤 弘道**

担当専門教育科目：青果物調製貯藏学、食品冷凍貯藏学  
 担当大学院科目：青果物調製貯藏学  
 専門分野：園芸産物利用学  
 主要研究テーマ：野菜・果実のCA貯蔵に関する研究  
 青果物の水温貯蔵に関する研究



野菜の熱伝導率の測定

**荒川 修**

担当専門教育科目：果物学、寒冷地果樹管理学  
 担当大学院科目：果実生理学  
 専門分野：果樹園芸學  
 主要研究テーマ：リンゴ果実の品質に関する生理学的研究  
 リンゴ樹の樹形と物質生産



春野菜の播種

**張 樹槐**

担当専門教育科目：生物生産システム学、生産環境情報学  
 担当大学院科目：生産環境計測制御学  
 専門分野：園芸情報システム学  
 主要研究テーマ：果実品質の計測・評価方法に関する研究  
 精密農業に関する研究



花壇作り

**生物生産科学科  
園芸学講座****本多 和茂**

担当専門教育科目：花卉園芸学、造園学  
 担当大学院科目：花卉資源開発学  
 専門分野：花卉園芸学  
 主要研究テーマ：デルフィニウム属の交雑  
 育種および種間雜種育成

りんごの糖度測定

**浅田 武典**

担当専門教育科目：果樹園芸学概論、寒冷地果樹管理学  
 担当大学院科目：果樹生理生態学  
 専門分野：果樹園芸學  
 主要研究テーマ：リンゴのスパー構成理論  
 リンゴ樹の生長を制御する機構に関する研究

**工藤 明**

担当専門教育科目：環境水文学、農業水力学  
 担当大学院科目：地域環境水力学  
 専門分野：農業水力学  
 主要研究テーマ：水田地帯の水管理と流水負荷量  
 農村地帯の水環境と水質改善

**佐々木長市**

担当専門教育科目：土壤物理学、土質力学  
 担当大学院科目：農地環境工学  
 専門分野：農地工学  
 主要研究テーマ：降下浸透水の浸透型が層内  
 諸現象に及ぼす影響に関する研究

**万木 正弘**

担当専門教育科目：構造力学 I、土木材料学  
 担当大学院科目：建設材料工学  
 専門分野：コンクリート構造学  
 主要研究テーマ：コンクリートダムの景観評価  
 農業水利構造物の健全度評価

**地域環境科学科  
地域環境工学講座****萩原 守**

担当専門教育科目：農地工学 II  
 担当大学院科目：環境土質工学  
 専門分野：緑地工学  
 主要研究テーマ：非晶質土壤粘土の構造と機能



岩木川で実施した魚道実験



白神山地の土壤調査

**泉 完**

担当専門教育科目：水理学 I・II  
 担当大学院科目：水利施設工学  
 専門分野：農業水力学  
 主要研究テーマ：水利構造物の水利設計  
 と水田用水量

**加藤 幸**

担当専門教育科目：測量学演習、構造力学演習  
 専門分野：水利構造学・農業情報学  
 主要研究テーマ：地下水の浸透流解析  
 適正農業規範からみた農産物トレーサビリティと工学分野と“食の安全・安心”  
 の関連性

**角野 三好**

担当専門教育科目：測量学、水利構造学  
 担当大学院科目：水利構造工学  
 専門分野：水利構造学  
 主要研究テーマ：老朽化ため池における安全性への対策  
 工法、構造物が地下水流动に及ぼす環境  
 への影響と対策工法

専門科目は2科目まで、大学院科目は1科目のみ、テーマは2つまで記載しました

## トピックス

# 日本技術者教育（JABEE）認定取得による学部教育の改革

農学生命科学部 地域環境科学科 万木正弘

二十一世紀の日本が活力を高め、国際社会に貢献していくためには科学技術の発展が必要であり、それを担う人材を育成していく基礎として、大学における科学技術教育が極めて重要であることは論を待ちません。さらに最近の社会状況として、大学卒業生には社会で活躍するための基礎学力をきちんと身につけていることが強く要求されており、その意味でも大学での教育はますます重要なになってきております。

そのような状況を受け、日本における技術者教育の質の向上と国際的に通用する技術者資格の教育的基盤の確立を目的に、日本技術者教育認定機構（JABEE）が設立され、2003年度から本格的な審査が始まりました。これは、各分野における大学の技術者教育プログラムとその活動を評価するものであり、内容的には次の4項目が審査されます。

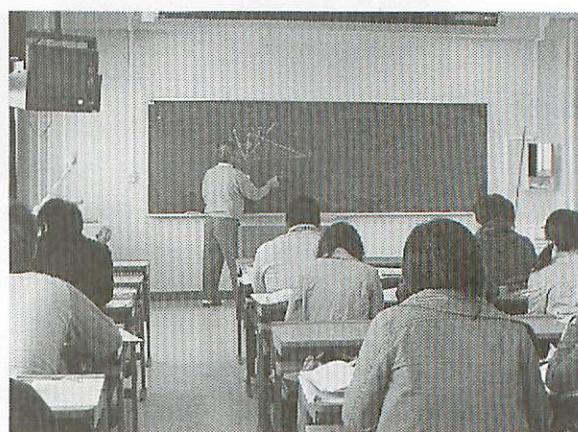
- ① 教育プログラムの提示する教育目標が、国際的な水準を満たす内容であること（P）
  - ② 教育が、記載されているとおりに実施されていること（D）
  - ③ プログラム修了生が、教育目標を達成していること（C）
  - ④ 教育レベルを維持し、改善するための継続的な改善活動が実施されていること（A）
- すなわち、学部教育における目標管理がなされ、P D C A の管理サークルがきちんと回っていることが要求されます。

大学の教育プログラムが JABEE に認定されると、そのプログラムの「教育の質の高さ」が保証されることになり、さらに国際的な技術者資格である「技術士」の受験資格を有する「技術士補」が与えられます。したがって、そのプログラムの修了生は、国際的に通用する一定水準の学力が保証されることになり、就職においては極めて有利になることが予想されます。

地域環境科学科では農業工学分野での認定を受けるべく、学科内に JABEE の認定基準に対応した農業土木プログラムを立ち上げ、学習・教育目標を具体的に示すとともにそれらの目標を達成す

るためのカリキュラムの整備、学生の要望を把握するためのアンケート調査、学外の評価委員会によるシステムの見直しなどを継続的に行うことでの活動を開始しました。このプログラムの立ち上げで最も苦慮したところは、学生が教育目標を達成したかどうかをどのように評価するか、さらにこのプログラムに進んだ学生全員が教育目標に対して一定水準以上の達成度に到達させるにはどのような教育・指導を行えばよいか、という点です。このプログラムでは、大学で教える内容の少なくとも 70% は身につけてもらいたいと考え、それを修了条件としています。大学の一般的な評価水準である 60% より高いところに目標を置いているわけです。そのため各教員がそれぞれの科目で分かりやすい授業を行うことのほか、この水準に達することが難しそうな学生に対しては、半期毎に個別面談を行って指導することをシステムとして組み込みました。

教員側のこのような努力が学生側にも理解されるようになり、ハードルは高いにもかかわらず農業土木プログラムへの進級を希望する学生が増えています。2005年度に JABEE の認定を取得する予定ですが、このような活動をとおしてよりよい学部教育を目指して行きたいと考えています。なお、本文は生涯学習教育研究センターのホームページにも載せております。



JABEE認定（予定）農業土木プログラムの授業風景

## トピックス

## 親子で母校へ 親子体験学習に参加しませんか

本学部の生物共生センター金木農場では、5年前から親子体験学習を行っています。この学習は『親子で汗して自然と農業を楽しく学ぶ』ことを目的に出発しましたが、加えて『多くの人々との触れ合い』を重視しようと努力しているところです。受講対象は、小学生以下の親子です。親子とはいっても、姪・甥子女さんや祖父母の皆さんとのペアでも結構です。講師陣は学部の職員にかぎらず、地域の人々などで構成され、幅広い職種・年齢層です。このようなたくさんの人々と親しくなる環境をつくってやることが子供達の協調性、社会性を高陽させる一助になるのではないかでしょうか。

これまで、県内の方に限っての募集でしたが、今年から県外の方にも参加して頂きたいと考え、

ご案内致します。県内の方は5月から10月までの5回出席可能で、県外の方は8月6日～7日（土～日曜日）の1泊2日の1回のみとなっています。内容・費用など詳しいことについてはパンフレットを準備しております。

ちょうどこの時期は五所川原の巨大な立ちネブタ祭もが行われますし、当農場には『太宰 治』ゆかりのポイントもあります。農場実習を思い起こして是非、農場に1泊して下さい。お申し込み・お問い合わせは下記にお願い致します。

〒037-0202 青森県五所川原市金木町芦野84

生物共生教育研究センター金木農場 村山成治

TEL0173-53-2029 (FAX 0172-52-2403)

e-mail : kanagifa @ cc.hirosaki-u.ac.jp



### 事務局から

平成17-18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓会生情報活用依頼書」を郵送またはファックスでお送り下さい。様式は本号の10ページにあります。  
同窓会ホームページ (<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>) からもダウンロードできます。

### 支部だより

## 平成16年度福島支部「わんどの会」総会開催

平成16年11月27日（土）福島グリーンパレスにて平成16年度福島支部（わんどの会）総会・懇親

（植物病理学）と総務幹事の工藤明（農業水利）が開催されました。学部からは原田幸雄先生

学）が出席いたしました。参加者は例年に比べるとやや少なく19名でしたが、会津から浜通りまで県内各地からの出席で、しかも今回が24回目。福島支部の底力を感じました。

最初に渡辺雄八会長（農経46年卒）の挨拶に引き続き、原田幸雄先生より学内の動向をお話していただき、工藤からは同窓会の活動と母校創立50周年記念事業の概要と釀金への協力をお願いした（会場にて釀金に応じてくれた方もおりました）。

懇親会に入ると元会長であった松本馨氏（育種39年卒）や畠澤国美氏（農工43年卒）の学部昔話から若手の現代学部の感想、さらに息子さんが本学部の学生である方の話など大いに盛り上がり、二次会への流れました。次の日は安達地区環境整備（山ノ入ダム：持館孝悦所長（農機48年卒））さらに初冬の土湯峠を越え、猪苗代湖、野口英世記念館そして小生の専門分野でもある猪苗代湖水位調節ゲート「十六橋水門」を見学させていただきました。

後日、新支部長國分俊行氏（農地51年卒）、新幹事尾形正氏（植病51年卒）より総会の記念写真



福島支部総会に参加した皆さん

と共に、「わんどの会」会員63名に総会の報告と50周年記念事業の趣意書を同封した旨のお手紙をいただきました。至れり尽くせりのお心遣い本当に有難うございました。今後、福島支部がさらに発展し、会員相互の親睦が深まるよう期待しております。

（工藤明記）

## 東青支部総会報告

2005年2月10日午後6時からホテル青森（青森市堤町）にて、平成16年度東青支部総会が開催された。青森市ではこの冬観測史上4番目の豪雪に見舞われた。当日も150cm以上の積雪を記録する中、昭和32年～平成4年3月卒業生まで、幅広い年代の合わせて31名の出席者があった。大学からは豊川好司学部長（昭和38年畜産卒）、澁谷長生



懇親会風景

先生（地域資源経営学講座）、齋藤寛先生（昭和42年土肥卒）ならびに戸羽隆宏（昭和50年農利卒）の4名が出席した。西川明満支部長（昭和45年作物卒）から支部の活動状況に触れたご挨拶があった。次いで、豊川学部長ならびに三上翼同窓会長（昭和42年農経卒）から、本年7月に母校が50周年を迎えることを主な話題としてご挨拶があった。ご挨拶後に、同窓会幹事の戸羽から50周年記念行事の概要説明と協力依頼があった。

続いて、一戸洋次氏（昭和43年土肥卒）の音頭で乾杯を行い、懇親会に移った。懇親会冒頭に中尾良仁元同窓会長（昭和32年土肥卒）のスピーチがあった後は、各テーブルやテーブルを越えての話に花が咲いた。会が盛り上がる中、佐藤孝氏（昭和34年農工卒）の音頭による三本締めでお開きとなった。

開催準備や司会をなさった及川博氏（昭和47年農経卒）に感謝致します。

（戸羽隆宏記）

## 平成16年度山形支部「弘山会」総会開催

平成17年2月19日（土）鶴岡市湯野浜温泉「ホテル海山」にて、弘前大学農学部・農学生命科学部創立50周年に係わる山形県支部会「弘山会」総会・懇親会が開催されました。学部からは宮入一夫先生（生物化学）と総務幹事の工藤明（農業水利学）が出席いたしました。参加者は大竹俊博会長（土肥36年卒）、鈴木武幹事（園芸41年卒）はじめ14名が出席し、大竹会長の挨拶・弘山会の今までの経緯などが紹介されました。さらに、大学・学部の現状や母校創立50周年記念事業などについて詳しく知りたいとのことで約1時間に渡り、宮入先生は法人化や学内の各種委員会・センターの設置、学生に対する学習・就職支援、地域産業との連携についてパンフ持参で丁寧に説明されました。工藤からは同窓会の活動と母校創立50周年記念事業の概要と醸金への協力をお願いしました。さらに7月2日午前中開催予定のりんごに関するシンポジウムに関しても報告しましたが、それなら夫婦で参加したいという方もおりました。支部の運営に関しては大竹会長留任、幹事は柴田三郎氏（農地56年卒）、野仲学氏（生化平成元年卒）、板垣健太郎氏（平成11年卒）と若返りを図

り、今後2～3年に一回は開催することに決定しました。懇親会では山形県の酒と弘前大学の酒の飲み比べから始まり、学生時代の話から近況報告など夜遅くまで盛会でした。今回事務局を担当していただいた山形県農業試験場庄内支場の金子勝広（植病56年卒）、結城和博（作物57年卒）両氏、本当にご苦労様でした。  
（工藤明記）



山形支部総会に参加した皆さん

## おおとり 岩手支部（大鵬の会）総会出席報告

2005年2月26日、盛岡市のホテルニューカリーナにて、同窓会岩手支部（大鵬の会）平成16年度総会が行われた。出席者は20名で、同窓会本部からは工藤（啓）と加藤（幸）が出席した。

総会では、阿部支部会長（44園芸卒）の挨拶に続いて、決算報告、予算計画のほか、支部会則の改正などが議論された。続いて役員の改選に移り、学部の50周年記念事業への継続的な協力のため、阿部会長以下現行の体制を継続することが確認された。さらに、岩手支部代表として記念式典にする同窓生に対する補助の実施などが決定された。

議事の終了後、支部顧問である北田さん（38作物卒）の挨拶に続いて、茂呂さん（H5畜産卒）乾杯の音頭で懇親会に移った。2時間ほどの会ではあったが、出席者の近況報告や学生時代の思い出に話に花が咲いた会合であった。最後は、阿部会長の一本締めで会は終了した。

また、飯村副会長（52昆虫卒）のご配慮で、当

日撮影した記念写真がその場で全員に配布されるなど、細やかなご配慮頂いた。特に、事務局の大里（62農動卒）さんには企画、運営を含め多大なご協力を頂いたことに、この場を借りて謝意を表する。

（文責：加藤幸）



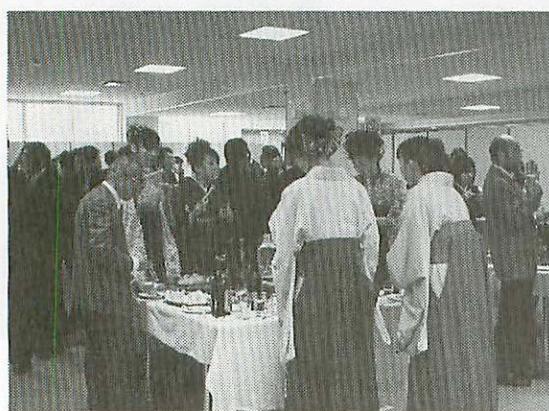
岩手支部総会に参加した皆さん

## 平成16年度卒業・修了生の祝賀会ならびに就職・進学先

平成16年度の弘前大学卒業証書授与式が平成17年3月23日午前10時から弘前市民会館で行われた。農学生命科学部の本年度の卒業生は181名で、農学生命科学部の第四回生にあたる。大学院の学位記授与式は午後1時から弘前大学創立50周年記念会館で行われ、農学生命科学研究科になって第二回目の修了生38人に対して、農学修士の学位が授

与された。平成16年度末現在で、農学部と農学生命科学部を合わせての卒業生は5,275人に、研究科の修了生は農学研究科と農学生命科学研究科を合わせて524人になった。

授与式終了後、同窓会主催で、記念写真撮影（校舎正面玄関前）および祝賀会（大学会館）が行われた。



卒業・修了生



卒業・修了生



金木農場産の酒米で造られた日本酒



初めての試みとして成績優秀者の表彰が行われた

本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各1名である）。

生物機能科学科（卒業者数38人）

ムツミテクニカ、(株)Soyu、(株)神戸屋、二プロ(株)、引越社(株)、グッドエージェンシー

(有)、日東エフシー(株)、日本電波ニュース(株)、(株)白子、(株)旭物産、(株)ホクレン、私立東奥学園高等学校、弘前市立第四中学校、北

海道大学大学院（4）、弘前大学大学院（11）、筑波大学大学院、千葉大学大学院、横浜市立大学大学院

#### 応用生命工学科（卒業者数44人）

タカナシ乳業（株）、（株）幸楽苑、ゴールドパック（株）、岩手缶詰（株）（2）、（株）富士通東北システムズ、ダイエー観光（株）、（株）バンテクノ、伊藤ハムディリー（株）、（株）サンカツ、青森県りんごジュース（株）、米久（株）、伊藤忠飼料（株）青森県立図書館、埼玉県警察、東通村役場、車力中学校、北海道大学大学院（2）、弘前大学大学院（14）、筑波大学大学院

#### 生物生産科学科（卒業者数56人）

月島食品工業（株）、（株）ライフフーズ、ワタミフードサービス（株）、ホクトヤンマー（株）、加森観光本社、（株）ポリテック・エイディティ、（株）アレフ、（株）青森銀行、ルートインジャパン（株）、（株）カネマツ、（株）丹波屋、（株）セロテック、（株）ニッカネ、（有）ワック能力開発スクール、山崎製パン（株）、寺岡ファシリティーズ（株）、仙台水産（株）、農業（自営）、弘前大学生協、JA 新いわて、全農宮城県本部、全農青森県本部（3）、農林水産省、青森県郷土館、北海道警察、六ヶ所村役場、柏木農業高校、八戸高専、北海道大学大学院（4）、弘前大学大学院

（9）、岩手大学大学院、東北大学大学院、琉球大学大学院

#### 地域環境科学科（卒業者数43人）

（株）丸魚、キューピー階上、八戸缶詰（株）、（有）アーク牧場、日本物理探鉱（株）、和民フードサービス（株）、（株）ソニー、東日本旅客鉄道（株）、（株）ジオトップ、HLS（株）、（株）クラフト、（株）箱崎、大洋薬品工業（株）、自営（2）JA 津軽みなみ、三沢郵便局、国土交通省北海道開発局、東北農政局、北海道庁、青森県庁（2）、新潟県庁、弘前大学大学院（4）、東北大学大学院、東京農工大学大学院

#### 大学院農学生命科学研究科（修了者数38人）

ワダカン（株）、住友製薬（株）、ホクレン農業協同組合連合会（2）、シバタ医理科（株）、日本化学飼料（株）、キリンビール（株）、協同乳業（株）、東京理化機（株）、木村綿業（株）、日本クレア（株）、青森中央短大、（株）ドーコン、日本 IBM テクニカルソルーション（株）、（株）アース環境、明治製菓（株）、（株）尚志舎、（株）パブリックコンサルタント、砂防エンジニアリング（株）、（独）農業生物資源研究所、弘前大学、北海道庁、岩手県庁、岩手大学連合大学院（5）、東北大学大学院（2）、岡山大学大学院、三重大学大学院

## 新任教員の自己紹介



福澤 雅志 助教授（生命理学講座）

2004年8月1日に細胞生物学講座に着任しました。学生時代は博士課程修了まで北海道大学理学部植物学科に所属し、卒業後同学科にて助手を数年間つとめました。その後日本での研究環境に限界を感じて、自費でイギリスに飛び、ポストドク研究員として10年間従事しました。この間、一貫して細胞性粘菌の分化因子で誘導される遺伝子発現に関わる転写因子の同定、解析に取り

くみ、多くの高等生物で重要なはたらきをしている転写因子 STAT や、転写因子 Myb を同定することができました。

日本に帰国して、イギリスのいい所、悪い所、また、日本のいい所、悪い所を常に考えながら、与えられた環境でできるだけよい仕事ができるようやっていこうと考えています。まだ弘前大学の学生の特性等はつかんでおりませんが、学生諸君にはできるだけ広い視野をもつように指導し、各人の力を阻害せず、アイデアを生かして伸ばせる研究室をつくっていきたいと思います。



片 方 陽太郎 教 授 (細胞工学講座)

2004年11月1日に応用生命工学科細胞工学講座に着任しました。岩手県盛岡市出身。大学卒業後、東日本の各地を渡り歩き、前任地の山形で21年間過ごしておりました。その間の1988年1月より2年間は米国のシカゴ大学分子遺伝・細胞生物学科に留学し、ケラチンという線

維タンパク質と出会い、帰国後もその仕事を発展的に継続しております。“ヒトのやらない仕事を”が研究のモットーにあり、弘前大学ではリンゴにおける細胞骨格様タンパク質の仕事も併せて行いと考えております。パワーあふれる学生・院生諸君と、厳しくも楽しい研究生活と考えておりますので、ご指導ご支援を御願いいたします。



本 多 和 茂 助教授 (園芸学講座)

2005年4月1日付で園芸学講座蔬菜・花卉研究室に着任致しました。1970年秋田県生まれ。平成元年北海道大学に入学、農学部を卒業。修士課程に進学し、修了後北海道で教員の職を得、北海道では16年間過ごしました。専門は花卉園芸学で、花の栽培や繁殖そして育種に関わる

研究に携わってきました。今回は自身の生まれ故郷秋田県と大学生時代から長く慣れ親しみ暮らした北海道の中間に位置する青森県に赴任となつたわけですが、自身の生まれ故郷に近いこの北東北の地を新天地とし、北海道で得た経験や知識を生かしながら、気持ちを新たに教育・研究に取り組めればと思っております。まだまだ未熟な私ですが、どうぞ宜しくお願ひ致します。



比留間 潔 教 授 (環境生物学講座)

22年間研究生活を送った米国ワシントン州シアトルにある University of Washington に別れを告げ、2004年5月に赴任しました。日本では東京教育大学、筑波大学を卒業修

了後、国立予防衛生研究所（現、国立感染症研究所）で半年間研究生活を送っただけで米国での生活が長く、まさに浦島太郎の心境です。何もかも違う環境に戸惑っていますが、弘前に昆虫生理学のメッカを作れるように頑張るつもりです。

## 教員人事

片方陽太郎 教授（細胞工学講座）  
 本田 和茂 助教授（園芸学講座）  
 比留間 潔 教授（環境生物学講座）

## 退職

平成16年3月末

奥野 智旦 教授（生体情報工学講座）  
 原田 幸雄 教授（環境生物学講座）

## 昇任

葛西 身延 教授（植物エネルギー工学講座）  
 橋本 勝 教授（生体情報工学講座）  
 佐野 輝男 教授（環境生物学講座）

## 新任

福澤 雅志 助教授（生命理学講座）



## 会費納入と住所通知のお願い

平成17-18年度会費5,000円を、同封致しました振込用紙で、お納め下さいますようお願い致します。転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報下さい。

## 同窓会事務局

〒036-8561 弘前市文京町3 弘前大学農学生命科学部同窓会

工藤 明 電話 0172-39-3842 (FAX兼用)	E-mail akudo@cc.hirosaki-u.ac.jp
戸羽 隆宏 電話 0172-39-3786	E-mail ttakki@cc.hirosaki-u.ac.jp
加藤 幸 電話 0172-39-3869 (FAX兼用)	E-mail kato@cc.hirosaki-u.ac.jp

## 訃報

小林 光雄様（園芸昭32年卒）  
 扇田 實様（土肥昭33年卒）  
 桜庭 誠蔵様（畜産昭36年卒、元同窓会副会長）  
 高安 一郎先生（元教授、畜産学講座）  
 岡本 辰夫先生（元教授、園芸産物利用学講座）

上記の会員がご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 写真でみる農学生命科学部この1年

農学生命科学部学務係が廃止され、学生センター（総合教育棟＝旧教養部棟）が発足した（2004年9月末）



学務係前には掲示板があった  
(2004年7月撮影)



学務係には3人の職員がいた  
(2004年7月撮影)

初めての試みとして卒業論文のポスター発表が、応用生命工学科と生物生産科学科で行われた（2005年2月中旬、大学会館2階研修室）



応用生命工学科卒論発表会



生物生産科学科卒論発表会

弘前市では観測史上最高の積雪150cmを記録した（2005年3月初め）



正面玄関付近



雪つり



学部前の歩道の除雪が事務職員  
総出で行われた